

令和3年度ニホンザル管理事業実施計画の実績と評価

宮城県

R3計画	R3実績	評価
<p>1 被害防除対策</p> <p>(1) 被害防除に関する目標(県全体):各市町村の目標額を集計して算出 ※管理計画に基づく目標:農作物被害は,過去3か年の平均を下回る。</p> <p>(2) 鳥獣被害防止総合支援交付金等による追い払い,捕獲及び研修会等の対策への補助。</p> <p>(3) 市町村における被害防止体制への支援,指導。</p>	<p>1 被害防除対策</p> <p>(1) 農業被害額は477万円(速報値)となり,過去3年間の平均626万円を下回った。</p> <p>(2) 鳥獣被害防止総合対策交付金等により13事業実施主体における捕獲等の取組を補助した。 (仙台市,気仙沼市,白石市,角田市,登米市,大崎市,蔵王町,七ヶ宿町,川崎町,丸森町,山元町,大和町,色麻町)</p> <p>(3) 交付金の活用や被害防止計画の更新等について支援,指導した。</p>	<p>【農産漁村なりわい課】 農作物被害の軽減に向けて,引き続き被害防止対策の推進・支援を行う。</p> <p>【農産漁村なりわい課】 効果的な被害防止対策の実施となるよう,引き続き被害防止体制整備への支援,交付金による補助及び研修会等による対策の推進を図る。</p> <p>【農産漁村なりわい課】 引き続き,交付金の活用等について指導,支援を行う。</p>
<p>2 個体数管理</p> <p>(1) 鳥獣被害防止総合支援交付金等による捕獲わなの購入及び有害捕獲等経費,捕獲(狩猟,わな設置)に関する研修会開催補助。</p> <p>(2) 群れの再評価等 これまで収集された評価データを基に現状の評価基準にあてはめ,群れの評価を再検討する。</p>	<p>2 個体数管理</p> <p>(1) 鳥獣被害防止総合対策交付金により,13事業実施主体における有害捕獲やわな購入,研修会開催等を補助した。 (仙台市,気仙沼市,白石市,角田市,登米市,大崎市,蔵王町,七ヶ宿町,川崎町,丸森町,山元町,大和町,色麻町)</p> <p>(2) 群れの再評価等 ・令和2年度の調査結果も踏まえ,評価基準にあてはめ,9群を再評価した。また,市町村の調査結果により,5群を見直した。</p>	<p>【農産漁村なりわい課】 効果的な被害防止対策の実施となるよう,引き続き被害防止体制整備への支援,交付金による補助及び研修会等による対策の推進を図る。</p> <p>【自然保護課】 捕獲圧などにより,評価が高くなった群れが増えた。</p>
<p>3 生息環境管理</p> <p>(1) 緩衝帯設置の推進 農作物被害防止対策に関する研修会の開催等により,農地周辺の環境整備を推進する。</p>	<p>3 生息環境管理</p> <p>(1) 緩衝帯設置の推進 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から,研修等は中止となった。</p>	<p>【農産漁村なりわい課】 計画通りに実施できなかったが,引き続き各地域での被害対策の取組の推進に努める。</p>

R3計画	R3実績	評価
<p>(2) 活用できる補助事業等の一覧表を整理し、ホームページや各種関連会議で情報提供を行うことで、農地周辺の未整備森林の解消を支援する。</p> <p>(3) モニタリング調査 イ 生息状況調査 現地調査及び地元住民、市町等の関係者からの聞き取り等により、県内に生息する群れの個体数及び遊動域の変化について、状況を把握する。</p> <p>ロ 被害状況調査 GPS首輪を用いた行動追跡調査を実施し、遊動域や利用環境の特性等について解析を行う。</p> <p>ハ 捕獲状況調査 各市町村の捕獲個体データを収集し、状況を把握する。</p>	<p>(2) 森林整備に活用できる補助事業の情報をホームページに掲載し、周知を図った。また、各種関連会議の場で事業に関する情報提供を行った。</p> <p>(3) モニタリング調査 生息状況調査 ・県内の群れの遊動域が変動していることが判明し、ポピュレーション図を修正した。 ・調査結果から、令和3年度現在で県内63群、群れ個体数2,532頭が生息していると推定された。 ・なお、全頭捕獲により消失した1群(仙台・川崎「秋保大滝B群」)と、新たな群れとして「斎川A群」「斎川B群」の2群が確認された。 被害状況調査 ・GPS首輪を用いた行動追跡調査の対象群を10群とし、個体捕獲・装着に努めたが、捕獲圧などで人への警戒感が高まった群れもあり、装着できたのは4群となった。</p> <p>捕獲状況調査 ・県全体で234頭、前年比44%減と大きく下回った。</p>	<p>【森林整備課】 引き続き、補助事業等の周知を図り、農地周辺の未整備森林の解消を支援していく。</p> <p>【自然保護課】 群れの変動については、引き続き調査を続けることで把握に努めたい。</p> <p>【自然保護課】 群れの警戒感が高まったこともあるが、被害抑制と遊動域の把握のため、引き続き調査を行っていく。</p> <p>【自然保護課】 被害の抑制と併せて、今後も維持したい。</p>
<p>4 その他</p> <p>(1) 事業を円滑に実施するため「鳥獣被害防止特措法」に基づき、市町村鳥獣被害防止計画の策定を支援する。 (計画作成済み市町村 サル対象15市町) ※ R元.10末時点</p> <p>(2) 農作物被害対策の指導を担う職員を育成し地域での対策を推進する。</p> <p>(3) 地方振興事務所単位の広域連携会議等において、被害状況や防除策等の情報交換、研修会等を実施し、被害防止を図る。</p>	<p>4 その他</p> <p>(1) サルを対象鳥獣とする7市町について、計画の更新を支援した。 (気仙沼市、角田市、登米市、大崎市、川崎町、松島町、色麻町)</p> <p>(2) 新型コロナウイルス感染拡大防止の観点から、国の研修等への職員派遣は中止となった。</p> <p>(3) 地方振興事務所で地域連携会議等を開催した。</p>	<p>【農産漁村なりわい課】 適正な計画内容となるよう、引き続き計画の作成及び変更を支援する。</p> <p>【農産漁村なりわい課】 計画通りに実施できなかったが、引き続き各地域での被害対策の取組の推進に努める。</p> <p>【農産漁村なりわい課】 近隣市町村との情報共有等の強化を図るため、引き続き連携会議等により広域的な被害対策を推進する。</p>

R3計画	R3実績	評価
<p>(4) 管理計画区域市町が実施計画書を作成する際に、農業協同組合、猟友会支部等と連携し、市町間の調整や、助言・指導を行う。</p> <p>(5) 関係隣接県(山形及び福島県)と生息(遊動域)の状況、農林作物被害状況、捕獲状況、各種管理対策について情報交換を行い、管理事業の効果的な実施に向けて連携を図る。</p> <p>(6) 管理計画に基づく管理事業は、幅広い関係者の理解と協力が必要なことから、実施状況についてホームページ等を通じ公表するほか、管理計画の趣旨やサルに利用されにくい農地・集落管理についても、リーフレット、各種自然保護及び鳥獣被害対策関連行事を通じ普及啓発を図る。</p> <p>(7) 管理事業及び管理計画の見直しの検討等を行うため、次の会議を開催する。</p> <p>イ 宮城県特定鳥獣保護管理計画検討・評価委員会ニホンザル部会</p> <p>管理計画の内容及び実行状況についての分析・評価等。</p> <p>ロ 宮城県特定鳥獣保護管理計画検討・評価委員会</p> <p>管理計画の作成、実行方法等についての検討、関係者の合意形成。</p> <p>(8) 林床等の屋外で栽培される特用林産物の被害防除対策等について情報提供を行う。</p>	<p>(4) ・できるかぎり加害個体のみ捕獲するよう、市町村と協議を進めていたが、全頭捕獲により、1群の消失が認められた。 ・また、捕獲圧によって群れが縮小し、人を恐れるようになったため、個体数調査などが不十分となった群れが複数あった。</p> <p>(5) ・山形県とは、県境の越境の可能性のある群れの設定が難しいことから、当県の調査状況を説明した。 ・福島県とは、ニホンザルの農林産物被害に関しては、他の野生鳥獣ほど有害との認識は弱いとの認識が示され、当県の調査状況を説明した。</p> <p>(6) ・必要に応じて、市町村関係課との意見交換を行った。 ・併せて、説明に必要な資料などを、調査受託者に作成を支援してもらった。 ・七ヶ宿町では、一部、飼料を漁る群れへの対策が不十分な酪農従事者がおり、危機感が薄いため、説得を続けてもらっている。</p> <p>(7)</p> <p>・令和3年8月25日(水)1回目実施。次期計画策定案の協議 ・令和3年12月16日(木)2回目実施。次期計画案の協議</p> <p>・第五期宮城県ニホンザル管理計画については、これまで過去3か年の被害額を下回ることとした目標設定をやめ、実施計画を策定する市町への助言を行い、県全体の捕獲数と農林産物被害の低減化の継続を目指すこととした。</p> <p>・毎年度実施している県の調査結果を反映させるよう助言を受けて、次期管理計画策定案の了承を得た。</p> <p>(8) 県内各地に配置されている林業普及指導員等が、普及活動を通じて、被害防止技術の情報提供を行った。</p>	<p>【自然保護課】 捕獲圧が高まったことなどで、目視確認しづらい群れも出始めた。</p> <p>【自然保護課】 ポピュレーションの変遷は引き続き調査するので、情報提供を含めて連携を続けていく。</p> <p>【自然保護課】 人馴れした群れもいるが、被害が抑制傾向にあることから、継続性をもった対策の懸念感は共有している。</p> <p>【自然保護課】 第五期管理計画の策定には委員から様々な意見を賜り、完成に至った。</p> <p>【林業振興課】 生産者のニーズに応じて引き続き、被害防止技術等について情報提供する。</p>